

ばってん・うーまん

BAITEN・uoman

1994年 10月 No.152
 <事務局> 三津田尚美
 <編集> 三津田尚美

南アフリカからのおくりもの



1994年10月17日(土) 18日(日)
 市民会館文化ホール

「子どもたちの絵画展」

長崎の差別とたたかっているグループが
 各々展示コーナーを 持ちました
 女性差別とたたかう ばってん・うーまんの会の
 展示を 今号と次号 つぎに御紹介します

逐次刊行物
 平 6年.12. 6
 国立婦人教育会館
 婦人教育情報センター

「ばってん・うーまんの会」の紹介

私たちの会は、1973年に「長崎女性問題研究会」として、女性の地位向上と男女平等をめざして発足しました。現在会員は約25名、30～50代の女性を中心に、長崎市ばかりでなく北松、五島列島、福岡などに在住している者もいます。原則として毎月1回の例会では会社員や教師など各分野から10人前後が集まり、会報の発行や女性問題の現状報告、会の具体的活動などを熱く語っています。

今から15年ほど前には、文化講演会（講師は後藤みな子さんや小沢運子さんなど）を開催し、その一つとして1981年には映画『ボーヴォワール自身を語る』を上映して、多くの女性たちの共感を呼びました。その翌年には、長崎市長に対して、女性問題を推進する市の行政機関として「婦人対策室」を設置するよう要望しました。また、1986～87年にかけては月1回長崎市でユニークな活動をしているさまざまな分野の女性たち（タウン誌の編集長、一級建築士、ソーシャルワーカーなど）と会って話を伺ったこともありました。

この間私たちは、『女のノート3年』という3年綴りの日記帳を3年毎に発行してきました。最初は2000部販売で出発しましたが、前回は全国からの注文が相次ぎ、4000部でも不足した次第です。あれから3年、今年もまた『女のノート3年』（1995～97年）を発行することになりました。（下に見本あり）そしてこの毎回の収益金で、長崎中央公民館の図書室に「ばってん・うーまんの会文庫」を設置し、女性問題に関係のある図書を寄贈してきました。（現在99冊）

以上、私たちの会を過去の流れと共に紹介してみました。それでは次に近年の活動状況をお知らせします。まずは、右のポスターを見て下さい。



大きなポスターも掲げました。



アジアの紫の花から女性の足がはえている。胴体も顔も頭も
すべて花に包みこみ 足はくねらせ 赤いハイヒール

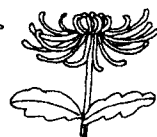
このポスターを見て、どう思われますか？何を感じますか？

これは1989年に配布された長崎「旅」博覧会のコスチュームデザイン募集のポスターです。私たちは「女性の顔も頭もなく、足だけなんて気持ちが悪い。女には頭はいらないと抑えられてきた従来の男尊女卑を想起させる。女性の人格を無視してセックスの対象としてしか見ていない女性蔑視のポスター」として「旅」博覧会協会に抗議し、ポスターの撤去を求めました。この時私たちは、ミス「旅」博にも反対し、なぜミスでなければならないのか、ミス・コンテストそのものが女性の性の商品化ではないのかと長崎県「旅」博事務局に抗議していた矢先でした。

ちょうどこの頃は、広告に描かれる女性の姿に性的なものが強調されすぎており、女性を男性の目を楽しませるモノとしてしか表現していないことが全国的に問題となった時期でもありました。商品には関係のない女性の裸ばかりが目だつポスターや、レイプ後の女性を想像させるようなお酒のCMなどに、全国の女性たちが抗議の声を上げていました。

私たちも、このポスターやミス「旅」博反対をきっかけに、メディアや政治など社会の中での女性蔑視の発言や内容に対してはやはり声を上げていかなければならないということで、「差別は目につきしだい告発する」をモットーに抗議活動を積極的に行うようになりました。

次は今までの抗議文の数々を抜粋したものです。



――長崎「旅」博覧会協会に抗議します！――

1989年8月に配布されたコスチュームデザイン募集のポスターは、裸の若い女の顔し出すセクシムードが基盤になっており、また顔がないということはすなわち人格の欠如を意味しており、女をセックスの対象としてしか認識できていないことの表れです。公的機関がこのような女性蔑視のポスターを採用し、街中に張りめぐらすことが許されるのでしょうか。今すぐ、このポスターを撤去して下さい。



――長崎「旅」博覧会事務局に抗議します！――

1989年5月。ミス「旅」博の仕事内容から見れば性別、美醜、既婚未婚の別は関係ない。未婚の女性の美が求められる思想背景には男性のエゴイズムがある。ミス・コンテストとは女性の外見上の美しさを人格、能力から切り離して品評することです。公平・平等を厳守する公的機関がミス・コンテストという選考方法によって人材を登用することが問題。地方自治体が主催する博覧会は老若男女、全県民が全人格を通して参加すべきで、何も未婚の若くて美しい女性だけが男性によって利用されるのはおかしいと思います。

――佐世保観光協会に抗議します！――

1989年10月に募集された「ミスさせぼ」コンテストの選考基準に両親の職業があるのは、女性を親に頼る自立した人間でないと見ているとともに片親差別が感じられます。また、応募資格に「社交界の女性」が除かれているのは、職業差別ではないのでしょうか。

――日本相撲協会に抗議します！――

1990年1月森山官房長官が「相撲の土俵に女が入れないのはおかしい」と自ら希望していた表彰式での総理大臣杯の授与を日本相撲協会は拒否し、その理由として「伝統・文化は守っていかなければならないから」と述べていますが、古くからの伝統や慣習も時代の波に洗われるべきだし、人権と平等の見地から見直さなければなりません。相撲の土俵といういわゆる「聖域」から女性を不浄なものとして締め出すという伝統は、今日の男女平等という世界共通の理念にそぐわないものですから、ぜひ撤回して下さい。

――堀之内さんに抗議します！――

1989年7月堀之内農水相が「女性が政治の場で使いものになるだろうか。サッチャー首相には夫と子どもがいて別格だが、土井委員長にはそういう感情が理解できないだろうから首相は務まらない」と発言したことは、男の政治家だけが天下国家を論じることができ、女には政治問題を論ずる資格も能力もないという傲慢さの表れです。この発言は政治は男女ともに国民全てが関わるべきものであるという民主主義への重大な挑戦であり、私たちは見過ごすわけにはいきません。

――JRに抗議します！――

1990年3月JR九州長崎支店キャンペーンガール募集の応募条件に年齢、結婚の有無のみならず、身長が高い者に限るとするのは、身体差別につながり、それは女性に対する選別であり、女性を物（商品）として扱う差別です。またJRは数多くの女性が利用しているのですから、JRを宣伝するのにどうして男性ではないのでしょうか。

――金丸 信さんに抗議します！――

1989年1月金丸元副総理の発言の中に「サッチャーは男性を知っている、おだんがある、土井さんにはおだんがねえじゃねえか。男を知らん。」とありましたが、このことは結婚しない女性に対する差別発言です。女子差別撤廃条約に批准した国の元副総理の発言としては許されないものです。これからの時代は女性のシングル化が進んでいく状況にあることをきちんと認識して、配偶者がいようといまいと女性を1人の人間として尊重することを要望します。

――小沢一郎さんに抗議します！――

1994年4月小沢一郎新生党代表幹事がこの度の社会党の離脱に関連して「どの女と一緒に寝ようがいいじゃないか」と発言したことは、重要な政治問題を『女と寝る』などという品位のない表現で発言して彼の女性蔑視をあらわにしたものです。日本が女子差別撤廃条約に基づいて両性が共生できる社会を目指しているにもかかわらず、その大きな責任と役割を担っている政治家がこのような発言をし、女性蔑視の意識を持っていることに憤っています。

※その他に今年5月長崎でTV放映されている住宅展示場のCFに対しても、「僕の家今度新しくなったんです。こんなきれいな家になったのはお父さんのおかげです。」というせりふは、家計を支えているのは男だけという従来の性的役割分担を肯定し、共働きが多数派になっている現状にはそぐわず、女性蔑視の内容であるとCF製作者に電話で抗議しました。

このような抗議の結果、何でも即改善というわけにはいきませんが、私たちの要望が受け入れられたものもあります。

こんなに変わったミス・コンの募集要項 (部が変更箇所)

'89ミス長崎コンテスト実施要項

- ・18歳～25歳の未婚の女性
- ・身長157cm以上
- ・身長、体重、
バスト・ウエスト・ヒップのサイズと
最終学歴、両親の氏名を明記。
- ・簡単な質問などを審査員専門の立場で行い、
容姿、教養、態度、健康などで採点を行う。
- ・上半身(アップ)と全身の写真各1枚

'90ミス長崎

- ・満18歳以上の未婚の女性
- ・身長157cm以上
- ・身長、体重、最終学歴を
明記
- ・審査、写真は前年と同じ

'91ミス長崎

- ・満18歳以上の女性
- ・長崎の歴史文化等簡
単な質問を審査員の
立場で行う。
- ・履歴書に写真を添え
る。

※「ミスさせば」の募集要項も変わりましたが、今だに未婚の女性、身長・体重・バスト・ウエスト・ヒップのサイズの明記、上半身と全身の写真各1枚を必要としています。

長崎ではまだミス・コンはなくなりませんが、大分市・熊本市など現在20ほどの自治体がミス・コンを廃止しています。(「婦人展望」90、11・12月号)



1つ1つの事に声をあげてゆく。
こんな事も差別なのだと言を大きく話してゆく。
長い長い道のりだけれど
意識の変革をめぐって声をあげて行こう。

